



これは実は、
親鸞という
人の「悪人
正機」とい
うことを伝

言う。「そうか、お互いに相手だけが悪いんじゃないくて、自分の方にも悪い点があるということに気づかされたんだな。」
それはそれでよかったけれども、お前たちいつぱんよく考えてみる。一時間前お前たちは、自分はいいい子、悪いのは相手。そうやって喧嘩けんかやっておった。ところが今は、悪い子が二人になったら喧嘩をやめて、先生の所へそろってやってきた。いい子が二人そろって喧嘩する。悪い子が二人そろって喧嘩をやめて仲良く頭を下げてやって来る。こんな不思議なことあるか、おい」と、子供たちに言ったら、子供たちも「本当にそうですね」と、うなずいてくれた。こういうことが私の教室でありました。

用した話なんです。…と。

これが、「共にこれ凡夫のみ」という考え方に人間が立ったら、喧嘩をやめて二人が仲良く頭を下げて謝り合う。そういう世界が開かれてくるということの証明だろうと思います。小学校五年生でも、ちゃんと先生からリードされて帰るべき所へ帰りますと、喧嘩をやめて仲良く頭を下げるという、そういう世界が生まれてくる。



これが〈南無阿弥陀佛〉の世界、〈帰命無量寿如来〉の世界だということ、を、あらためて教えられたわけです。

よい子ふたりだと喧嘩する。悪い子ふたりだと喧嘩をやめて二人仲良く頭を下げる。これが人間のあり

方です。賢善けんぜんの立場に立ちますと、悪いのはお前、相手が悪い。愚かなのお前、間違っておるのは向こう。こういうふうにとばかりを批判する。他者批判して、そして自分が抜きになっている。これが現代の私たちのやっている姿じゃないですか。

正義は我にありということ、相手がかりを責め立てるような生き方。今の世の中のどこを見てもみんなそうでしょう。正義は我にありで、他人ばかりを責めていく。自分はいいい子になって他者批判をする。これじゃ世の中は持ちません。世の中は仲良くいきません。：

【平成16年門徒研修会
亀井鑛師講話より 抜粋】

みなさまから令和七年度門徒費を
戴いております。

深いご理解とご協力に
厚くお礼申し上げます。 合掌